



＜「まほろんまつり」のようす＞

まほろんイベント「GWまほろんまつり」

5月3日（土）から6日（火）までの4日間、恒例の「ゴールデンウィークまほろんまつり」を開催しました。今年も、たくさんの日替わり体験メニューを用意し、昨年を上回る1,486人のお客様にご来館いただきました。

特に5月5日（月）は、こどもの日。戦国時代の合戦さながらに鎧兜をまとった武者が、ホラ貝で開館をつけると、来館されたお客様から「おお、すごい!!」・「かっこいい!!」・「早く来てよかった!!」との歓声があがりました。

また、まほろんを代表する体験活動の「火おこしに挑戦!」は、ゴールデンウィークでも大変な人気です。「舞ぎり」による火おこしは、親子や兄弟・友人、時には職員と一緒に、力を合わせて大半の方が火おこしに成功しました。最終日の6日（火）には、棒1本で火をおこす「もみぎりファイヤー!」を行いました。親子や兄弟・友人などみんなで力を合わせて見事13組が成功し、気持ちのよい汗をかいていました。

このほか、野外広場では「弓矢体験」、普段は見ることのできない一般収蔵庫内を見学する「バックヤードツアー」、まほろんオリジナルの紙かぶとがとれる「紙かぶとをつくろう!」や、「缶バッヂをつくろう!」、「わたあめづくり体験」、「時代衣装を着てみよう!」、「植物観察ツアー」、「紙しばい上演」、「アンギン編みの実演」、「まほろんオリエンテーリング」、「文化センター子ども映画会」、など、館内が連日にわたって賑わいました。盛りだくさんの内容に、「面白くて楽しく、時間の過ぎるのも忘れてしまう!」というお客様もいらっしゃるほどでした。

体験学習

実技講座「土器づくり初級編」(全2回)

本講座では、土器づくりは初めてといった方々が、土器づくりに挑戦しました。

初めに、職員が土器の歴史や製作方法について説明した後に、製作を開始しました。受講者の皆さんは、まほろん収蔵の縄文時代から古墳時代の本物の土器を見本に選び、形や厚さ、口の広がり具合などを観察して、個性豊かな土器をつくっていました。

今回の土器づくりで皆さんは、「土器」に対する見方が変わったのではないのでしょうか。



＜「土器づくり初級編」のようす＞

実技講座「^{おおほり}大堀相馬焼をつくろう」(全2回)

5月25日(日)と6月15日(日)に、大堀相馬焼の窯元である山田慎一先生をお迎えして、実技講座「大堀相馬焼をつくろう」を開催しました。

16人の参加者は、ふくしま復興展「発掘された大堀相馬焼」で展示されている江戸時代から明治・大正時代にかけての大堀相馬焼を見本として、茶碗や皿、花瓶などの製作に挑戦しました。土をこねる作業に始まり、形づくり、絵付け、^{ゆうやくが}釉薬掛けと、ふだん何気なく使用している焼物がどのような工程で作られるのかを学習することができました。



＜「大堀相馬焼をつくろう」のようす＞

文化財研修・講演会

文化財講演会 I 「^{せきねたつひと}近世大堀相馬焼の編年と流通」

6月14日(土)に関根達人氏(弘前大学人文学部教授)をお招きして、本年度第1回目の文化財講演会が開催されました。窯跡や消費地遺跡から出土した資料を基に大堀相馬焼の江戸時代から明治時代にかけての製品や製品構成の変化が示され、それらの変化は、社会の変化に伴う顧客のニーズに応えた結果であったことが示されました。最後は、東日本^{かまもと}大震災により、避難先で操業されている窯元の方々へのエールが送られました。

聴講された方々は皆満足され、大堀相馬焼の新たな魅力を感じた様子でした。



＜文化財講演会のようす＞

7月～9月の文化財研修・講演会のご案内

7～9月の文化財研修は、3コースを予定しています。7月5日(土)に、考古資料研修として「縄文時代の基礎知識」を実施します。8月5日(火)～7日(木)には、教職員等発掘調査体験研修を実施します。会場は広野町の発掘現場で、基本的な発掘調査技術が学べます。9月3日(水)・4日(木)には、文化財保護指導者研修会を実施します。県内各市町村の文化財保護について指導的立場にある関係者の方々を対象とした専門的な研修です。福島県教育委員会・福島市教育委員会との共催で、福島市を会場として行います。

7～9月の講演会・講座は、館長講演会2回、文化財講演会1回、文化財講座1回を予定しています。

館長講演会は、『はじめての考古学 I』をテーマに年5回開催しますが、第2回を7月20日(日)に、第3回を9月20日(土)に行います。

文化財講演会は、7月19日(土)に「特別史跡^{さんないまるやま}三内丸山遺跡と世界遺産」と題して、有名な縄文遺跡について講演します。

文化財講座は、8月23日(土)に「会津地方の縄文時代」を開催します。

詳細は、ホームページや館内備え付けのポスター・チラシ等でお知らせします。皆さんの応募・参加をお待ちしています。

企画展示案内

指定文化財展

「ほうしょうじり法正尻遺跡と特別史跡さんないまるやま三内丸山遺跡」

会期：平成 26 年 7 月 19 日（土）～9 月 15 日（月）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

＜まほろんに三内丸山遺跡がやって来る！＞

平成 26 年度の指定文化財展は、小学校の教科書にも掲載されている三内丸山遺跡を取り上げます。日本で最も有名な縄文時代の遺跡である同遺跡の土器や石器、土偶などが、まほろんにやってきます。

あわせて、同時代の福島県の至宝とも言うべき、法正尻遺跡出土資料も紹介します。この遺跡はやまぐんぼんだいまち耶麻郡磐梯町といなわしろまち猪苗代町にまたがる大きな遺跡です。磐越自動車道建設に先立ち、福島県教育委員会によって、昭和 63 年と平成元年の 2 カ年にわたって発掘調査が行われました。多数の住居跡・貯蔵



＜三内丸山遺跡全景（復元）＞

写真提供：青森県教育庁文化財保護課

庫、土器等が見つかっています。平成 21 年度には、出土した土器や石器等の 885 点が、

国の重要文化財に指定されました。

福島県の法正尻遺跡と青森県の三内丸山遺跡、南と北東北の縄文時代の資料を同時に見比べられる機会は、今回のまほろんの展示以外ありません。驚くべき縄文の世界は、一見の価値ありですよ。

この展示に合わせて、7 月 19 日（土）には、三内丸山遺跡の発掘調査を指揮された、青森県教育庁文化財保護課長の岡田康博氏を講師に迎えて、『特別史跡三内丸山遺跡と世界遺産』という題で、講演会を開催します。

さらに、8 月 2 日（土）には実技講座「縄文ポシエットをつくろう」を開催します。「縄文ポシエット」とは、三内丸山遺跡から発見された、針葉樹の樹皮を網代編みという方法で編み込んだカゴのことです。まほろんでは、クラフトテープを用いて、縄文ポシエットを製作する講座になります。

どちらも、詳細はまほろんにお問合せ下さい。

＜三内丸山遺跡出土「縄文ポシエット」＞

写真提供：青森県教育庁文化財保護課



＜法正尻遺跡出土土器＞



＜三内丸山遺跡出土「縄文ポシエット」＞

夏のまほろん

まほろんイベント「まほろん夏まつり」

日時：平成 26 年 7 月 27 日（日） 10 時～15 時

「まほろん夏まつり」は、季節ごとに開催しているイベントの一つで、まほろんや文化財に対して親近感を得てもらうことを目的としています。

その内容は、弓矢・槍投げ・火おこしの 3 種目を体験し、その総得点を競う「まほろんカップ」、「かき氷づくり体験」や、新メニューの「銀さがし体験」など盛りだくさんのメニューを用意して、みなさんの来館をお待ちしています。



＜昨年度の「まほろんカップ」の入賞者＞

夏休み特別体験メニュー

小・中学校の夏休み期間にあわせて「夏休み特別体験メニュー」を 7 月 23 日（水）～8 月 24 日（日）にわたって開催します。その期間中は、休館日なしで連日開館します。

「夏休み特別体験メニュー」の内容は体験広場で実施する「弓矢体験」・「やり投げ体験」、当館の一般収蔵庫内を見学し、本物の土器を触ることができる「バックヤードツアー」などを予定しています。

お盆の帰省に際して「弓矢体験」を楽しみに来館される方が多い人気のメニューです。



＜「弓矢体験」のようす＞

活動室から

新メニューについて

体験活動室に新たなメニューが4つ加わりましたので紹介します。

1つ目の「網代編みに挑戦しよう」では、エコクラフトで縄文時代からある編み方を体験します。2つ目の「土偶・土面をつくろう」では、お湯で柔らかくなる粘土を使って縄文人の顔をつくります。3つ目の「装飾壁画に挑戦しよう」では、赤・白・黒などの顔料で古墳時代の壁画づくりを体験します。4つ目の「オリジナルキーホルダーをつくろう」では、プラバンに印刷した勾玉や古代の馬などの絵に

色を塗り、オーブンで焼いてつくります。

いずれも、わくわくする体験ですので、皆さん、新メニューに挑戦してはいかがでしょうか。



＜「土偶・土面をつくろう」＞

	メニュー名	期間	体験料
①	「網代編みに挑戦しよう」	8/26 ~ 9/7	110円
②	「土偶・土面をつくろう」	9/9 ~ 9/23	50円
③	「装飾壁画に挑戦しよう」	10/7 ~ 10/19	200円
④	「オリジナルキーホルダーをつくろう」	10/21 ~ 11/3	100円

シリーズ収蔵品紹介 18

高堂太遺跡出土の青銅製提子

提子とは、弦（把手）のついた鍋形の酒器のことで、お酒などを持ち運んだり、温めたりする際に使われた容器です。

高堂太遺跡は、喜多方市豊川町に所在し、会津縦貫北道路の建設に先立って発掘調査が実施された遺跡で、提子は、中世の屋敷を構成する建物跡床下の小さな穴に納められていました。口径19cm・高さ10cmの本体に、長さ6.5cmの片口（注ぎ口）がついたヤカンのような形をしています。

提子が納められていた穴から、中国産の磁器皿が



＜高堂太遺跡出土 提子＞

出土していることも注目されます。提子の中に、皿10枚が伏せて重ねられ、提子の外に接して小皿10枚が横倒しの状態で密着していました。また、提子の中の皿を1枚ずつはが



＜遺物出土状態＞

してみると、皿と皿の間から緩衝材とみられる籾殻がみつかりました。さらに、皿をすべて取り上げた提子底面には、皿を束ねていた縄が残っていました。このことから、皿はズレたり倒れたりしないように、整然と納められていたことが分かります。その年代は、磁器の特徴から15世紀後半から16世紀初頭とされています。

提子や皿などの埋納例は、地鎮に関係すると考えられ、全国的にも貴重な発見といえます。こうした埋納例は、遺跡によって出土品の組み合わせが異なるものの、年代的には15世紀前半から16世紀中頃までに限られることが指摘されており、高堂太遺跡出土品の年代とも一致します。このことから、中世の会津地方に提子を用いた地鎮の風習が伝わっていたことが分かります。（専門学芸員 佐藤 啓）

まほろんからのお知らせ

7月23日（水）～8月24日（日）の夏休み期間中、まほろんは月曜日でも休まず開館いたします。

まほろんの野外に広がる森は、天然のクールスポット！真夏でもさわやかな風がふきぬけます。また、期間中は楽しい特別体験メニューをご用意して、皆さまをお待ちしています。

ぜひご来館ください！

ご利用案内

開館時間	9：30～17：00（入館は16：30まで）
休館日	月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただし、GW・夏休み期間中は開館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12月28日～1月3日）
入館料	無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）
その他	団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。